

令和3年

第4回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

## 令和3年第4回仙北市議会定例会 市政報告

令和3年第4回仙北市議会定例会の開会にあたり、主要事項についてご報告します。

はじめに、新型コロナウイルス感染症についてです。

政府では、第5波の新型コロナウイルス感染症が全国で猛威を振るっていることから、8月2日、緊急事態宣言の対象区域を東京都、沖縄県に加え、新たに埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府を追加し、6都府県に拡大しました。また、まん延防止等重点措置については、北海道、石川県、兵庫県、京都府、福岡県の5道府県に加え、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、静岡県、愛知県、滋賀県、熊本県の8県を追加しています。

秋田県内でも感染が拡大し、先週8月6日に県は仙北警察署勤務の警察官の感染を発表しました。さらに、昨日は同署でクラスターが発生したとし、これまでに同署の警察官7人、その家族2人の感染を確認しています。市内感染の状況確認や対策で、昨日は第27回の市新型コロナウイルス感染症対策本部を開催しました。感染者等に対する誹謗・中傷などの行為は絶対に行わないよう、本部会議を通じて関係者と市民の皆様をお願いすること、また、濃厚接触者となった後、検査で陰性だった方の同居家族や職場に関し、取り決めがない場合は経過観察を5日とすることを決めました。さらに、感染対策としてマスクの常時着用、3密回避、他県との往来の自粛など、基本的な注意を改めて市民の皆様にも周知することにしました。時節的にも人流の増加が心配です。今を最大の注意で乗り切るしかありません。まさに踏ん張りどころです。

こうした中でも、新型コロナに打ち克つ有効な対策の1つがワクチン接種です。

仙北市では、7月31日までに65歳以上の高齢者の接種がほぼ終了し、3か所の集団接種会場と老人福祉施設で2回の接種を受けた方は

9,442人で、接種率は88%になっています。このほかに、市外の施設での接種や医療従事者として接種をした方などもありますので、最終的には90%以上の接種率になると見込んでいます。

8月1日からは、64歳以下の接種が始まっていて、9月11日までの第3クールで4,872人、9月19日から10月30日までの第4クールで5,466人の計10,338人の接種を予定しています。

しかし、未だにワクチンの供給が不透明な状況が続き、第4クールのワクチンが確保できるのか非常に心配な状況にあります。各方面からの情報収集と国への働きかけを強力に行っています。

接種会場は、毎日、医師や看護師、保健師、ボランティアグループの方など多くの皆様のご協力により運営されていて、心から感謝申し上げます。しかしながら、肝心のワクチンが入ってこないことには、新型コロナに打ち克つことはできません。国には、ワクチンの供給が全国に行き渡るスケジュールを早急に示していただきたいと思います。

次に、令和2年度の一般会計決算についてです。

歳入総額は264億4,975万円、歳出総額は260億1,776万3千円、歳入歳出差引額は4億3,198万7千円の黒字です。翌年度へ繰り越すべき財源総額2,312万5千円を差し引いた実質収支額は、4億886万2千円の黒字です。財政状況を示す各指標では、経常収支比率が95.8%で、昨年度との比較で3.1ポイント、公債費比率は5.7%で0.5ポイント、公債費負担比率は14.2%で1.0ポイント、それぞれ改善することができました。一方で、経常一般財源比率は97.8%と前年度から0.7ポイント悪化しています。なお、財政の健全化を判断する指標として、議会に報告し公表することになっている健全化判断比率は、公営企業の資金不足比率と併せ、監査委員の意見を付して、本定例会で追加提出しお示しします。

次に、一般会計補正予算(第5号)についてです。

補正額は4億6,206万円の追加で、補正後の額は214億7,155万

5千円です。主な追加事業は、田沢交流センター運営管理費、秋田内陸線イベント列車整備事業費補助金、低コスト技術等導入支援事業費補助金、農地集積加速化基盤整備事業費、2021仙北市プレミアム宿泊支援事業費、冬期交通対策費、高齢者世帯火災警報器設置事業費、学校保健特別対策事業費、子どもスノースポーツ交流事業費などです。第2表債務負担行為補正は追加、第3表地方債補正は追加及び変更です。

それでは、各部局等の主要事項及び諸般の状況を報告します。

## 【総務部】

### ◇行政手続きにおける押印、書面、対面方式の見直しについて

国は、新型コロナウイルス感染拡大の防止、デジタル時代を見据え、行政手続きのオンライン化の障害となる書面主義、押印原則、対面主義について見直しを推進しています。

仙北市でもこれらの見直しを全庁的に取り組むこととし、7月1日付けで見直し方針を示し、対象事務の洗い出し作業や調査による取りまとめを行っています。

9月以降、押印等の廃止など見直しが決定されたものについて、市民の皆様へ随時周知してまいります。

### ◇新仙岩トンネルについて

7月26日、秋田県とJR東日本は、新仙岩トンネルの事業化に向けた覚書を締結しました。

計画は、田沢湖線の田沢湖―赤湊間約15キロの区間にトンネルを直線的に整備するもので、総事業費約700億円のうち6割までをJR東日本が負担するとしています。

仙北市、秋田市、大仙市など沿線市町村等で構成する秋田新幹線トンネル整備促進期成同盟会では、これまで以上に本事業の早期実現に向けた要望活動を活発化し、国に予算措置を求めていくこととしていま

す。

#### ◇せんぼくふるさと応援便事業について

7月16日から申請手続きを開始した、せんぼくふるさと応援便事業は、7月末現在で921世帯から申請があり、配布総数1,790枚、予算上の執行率58.0%となっています。引き続き、市役所、郵便局等の窓口で周知を図り、多くの市民にご利用いただけるよう努めます。

コロナ禍の影響で、残念ながら今年の帰省をお控えいただく方々などに、少しでも仙北市の懐かしい食材などが届けられたものと思っています。

#### ◇ふるさと納税について

ふるさと納税の4月から6月までの全県集計結果が発表され、仙北市は、わずかの差で北秋田市、大館市に続く第3位でした。寄附額は約1億2千万円です。現状の分析ですが、仙北市の主力である米について、他市町村が寄附を伸ばした4月から6月の令和2年産米が、仙北市では昨年度の好調の影響で枯渇してしまったこと、また、他市町村が米の返礼品のバリエーションを増やすなどし、競合が増してきていることと考えています。

7月については、令和3年産米の予約販売の本格化、新たな返礼品である「ごはんパック」の好調などで、寄附額も約1億円まで回復しています。当初予算で掲げた12億円の目標達成に向けて、更なる返礼品の開発などに取り組みます。

#### ◇大雨による災害について

7月11日未明からの大雨により、県道駒ヶ岳線で土砂・流木の堆積があり、12日、午前6時40分から、アルパこまくさから駒ヶ岳8合目間が全面通行止めになりました。これにより羽後交通の定期バスが1日運休になりましたが、翌日には復旧して通常運行となっています。この大雨等による怪我など人的被害や住家被害はありませんでした。

### ◇建物火災について

7月16日、午後3時55分頃、田沢湖岡崎字田中地内で建物火災が発生しました。出火後、隣接する建物にも延焼し、約1時間後に鎮火しましたが、出火元の建物が全焼、同所有の平屋建て小屋の一部が焼損、隣接する木造一部2階建て住宅の一部が焼損、同所有の平屋建て小屋が全焼、同所有の平屋建て事務所の一部が焼損しました。この火災による人的被害はありませんでした。

### ◇秋田内陸線線路枕木の火災について

7月27日、午後3時20分頃、角館町上菅沢、内陸線菅沢踏切30m下り側の枕木から出火、枕木1本が焼損となりました。この火災による人的被害はありませんでしたが、列車1本に遅れが生じました。

## 【市民福祉部】

### ◇生活応援商品券について

新型コロナウイルスの影響による感染予防対策の負担増に対し、非課税世帯・子育て世帯を支援するため、申請により生活応援商品券を配付しています。対象と見込まれる7,265人に案内のうえ申請いただき、8月3日時点で5,180人に商品券を送付しています。1人1万円で7月24日から仙北市内の事業加盟店で利用いただいています。

### ◇角館こども園の法人化説明会について

令和4年度からの法人移譲予定に伴う角館こども園の保護者説明会は、新型コロナウイルスの感染拡大による状況を鑑み、開催の見通しが立たないことから、書面開催に変更しました。

保護者の皆様に資料をお配りし、法人化に関する意見書の提出をお願いしましたが、特にご意見、ご質問等はありませんでした。

この結果を踏まえ、父母の会会長と園長、副園長と協議し、保護者の皆様に書面開催の結果について報告しています。

## 【観光文化スポーツ部】

### ◇観光・宿泊支援事業について

市内で使用できるお土産券を発行する「仙北市プレミアム観光支援事業」は、お土産券の販売・利用を7月22日から開始しました。

また、秋田県民割等と併用できる秋田県民向け宿泊支援施策「2021仙北市プレミアム宿泊支援事業」は、1,500セット(1応募で2泊分延3,000泊分)の募集枠に対し、9,184セット(延18,368泊分)の応募がありました。こちらも7月22日から利用開始となっています。

### ◇角館駅開業100周年について

1921年に開業したJR田沢湖線の角館駅は、同時に開業した大仙市の羽後長野駅、羽後四ツ屋駅と共に7月30日に100周年を迎えました。仙北市では、JR東日本秋田支社、田沢湖・角館観光協会との連携協定、また大仙市、大仙市観光物産協会との連携で、「100年のありがとう」田沢湖線3駅開業100周年を7月30日から実施しています。

記念横断幕の掲出や、共通の記念硬券のプレゼント、懐かしい写真とエピソードの展示など、それぞれ期間は異なりますが、9月30日まで実施することとしています。

### ◇祭り・観光イベント等の中止について

新型コロナウイルス感染症への対応等により、今年度の「たぎわ湖・龍神まつり」、「戸沢氏祭」は、それぞれ実行委員会で中止が決まっています。このうち、本来は昨年で第50回となった「たぎわ湖・龍神まつり」は、2年送りで来年度に第50回を実施することとし、今年は期間と場所を集中させない回遊型とすることで密を回避した「龍神SUMMER」を7月17日から8月31日まで実施しています。

次に「角館祭りのやま行事」についてです。これまでに角館祭りのやま行事実行委員会では、秋田大学医学部附属病院感染制御部の医師、看護師の方々との勉強会の実施や、市の新型コロナ対策本部からも、

本部長である私と危機管理監、医療局長が参与として加わり、対応を検討してきました。現在のところ、お祭りという環境下で十分な感染対策はできないという結論に至り、大置山の設置は行いますが、9月7日から9日の曳山運行、舞台の設置などは中止、道路の交通規制も行わないことが決まりました。

なお、現時点では、角館総鎮守神明社の神事、勝楽山成就院薬師堂の法楽は、それぞれ規模を縮小して行う予定と伺っています。

また、「抱返り紅葉祭」は、現在、実行委員会が今後のコロナの感染状況を見ながら、開催の可否や規模について検討しています。

#### ◇秋田新幹線を活用した物流について

JR東日本秋田支社、DMO候補法人田沢湖・角館観光協会及び仙北市の連携協定の取り組みとして、仙北市農山村体験推進協議会が販売している「母さんのおすすめセット」をベースとした旬の野菜や山菜のセットを、7月2日角館発12時57分のこまち24号で輸送しました。

JRのインターネット予約サービス「JRE MALL ネットでエキナカ」で事前予約を受け付け、東京駅で予約をしていたお客様が受け取るという仕組みです。おかげさまで準備していた40個を完売することができました。

今後、8月20日に第2弾、9月10日に第3弾を予定しています。東京駅にお客様が受け取りに行く現状のシステムを改善し、駅外の店舗・飲食店等へダイレクトに定期物流をしたいと考え、多くの関係者からご協力をいただき改善を進めています。

#### ◇角館ミニ劇場について

角館庁舎を会場に「角館ミニ劇場」が開催されました。第1回となった6月27日は「津軽三味線」、第2回の7月25日は「飾山囃子」と「朗読会」を開催し、観衆の皆様に練習の成果が披露されました。

今後とも発表者も観衆も気軽に芸術文化活動に参加できる機会の提供に努めていきたいと思っております。



## ◇文化財講習会について

今年度4回にわたり文化財に関する講習会を実施する予定です。これは、文化財は堅苦しいものではなく、市民の皆様のすぐそばにある身近なものとして捉えていただくことを目的としています。

1回目の講習会は、樹木医で仙北市さくらアドバイザーの黒坂登さんを講師に「身近な文化財を知ろう！花咲かじいさんのサクラ管理テクニック」と題し、7月31日に角館庁舎で開催しました。当日は17人の参加者があり、具体的な桜の管理手法をアドバイスいただきました。

今後も機会を捉えて、市民が文化財に親しむ場を提供していきます。

## ◇東京2020オリンピック及び聖火リレーについて

「希望の道を、つなごう」のコンセプトのもと、全都道府県をつなぐ東京2020オリンピック聖火リレーが行われました。仙北市では6月8日、桜並木駐車場を発着地点とした武家屋敷周辺コースで、13人のランナーによるリレーが行われました。国内外から注目を集める聖火が街を走り抜け、武家屋敷の町並みの魅力も発信し、しっかり聖火をつなぐ役割を果たすことができました。

そして、7月23日から8月8日まで開催された大会では、カヌー・スラローム競技に、仙北市角館町の馬場昭江(ぼば あきえ)さんが監督として参加し、同競技の女子カナディアンシングルの種目に、同田沢湖の佐藤彩乃(さとう あやの)さんが選手として出場しました。佐藤彩乃さんは、決勝戦に進むことはできませんでしたが、オリンピックという大舞台で、市民や応援の多くの人の期待を背にレースに挑む姿は、本当に大きな感動を与えてくれました。佐藤彩乃選手、ご苦労様でした、ありがとうございました。

## ◇田沢湖マラソンの中止について

9月19日に開催を予定していた第35回田沢湖マラソンについて、6月21日と7月2日の2回にわたり実行委員会を開催し、大会規模の縮

小や参加対象者の制限など、新型コロナ感染症対策を講じた開催方法を探り慎重に協議しました。その結果、県内外の感染状況を踏まえ、ランナーや大会関係者の安全を第一に考えて、昨年度に続き開催を断念することに決定しました。

## 【農林商工部】

### ◇感染予防対策支援事業費補助金について

新型コロナ感染症の拡大を防止するために市内事業者が行う衛生環境整備の取り組みを支援する感染予防対策支援事業費補助金の申請は、7月15日から受付を開始しています。8月6日現在の申請・交付決定件数ともに5件で、交付決定額50万円となっています。

### ◇プレミアム商品券について

新型コロナ感染症の影響による地域経済の低迷に対する消費の喚起や住民生活の支援を行うため発行した仙北市民プレミアム商品券の販売状況は、7月2日に購入申込を締切し、7月24日から購入引換券との引換を開始しています。8月6日現在の状況は、申込冊数19,790冊に対し購入引換冊数18,071冊、券面額2億3,492万3千円分、購入引換率91.3%となっています。

## 【建設部】

### ◇道路事業期成同盟会について

国道46号「地域高規格道路」盛岡秋田道路整備促進期成同盟会の要望活動について、コロナ禍で対面要望ができないことから、6月下旬に同盟会で、沿線市町の合意である最優先区間「生保内～卒田間」の早期整備計画策定の要望書を、地元選出国會議員、国土交通省、財務省へ郵送しました。また、6月30日には、国土交通省道路局宇野善昌（うの よしまさ）次長とリモート要望会を行いました。宇野次長からは、必要な路線と認識していて、地元を盛り上げてほしいと回答をいただきました。

今後も地域高規格道路大曲・鷹巣道路整備促進期成同盟会と共に要望活動を強力に進めていきます。議員の皆様にも特段のご協力をよろしく願います。

## 【医療局】

### ◇新型コロナウイルス感染症対応について

両病院では、来院者の検温や面会制限等、院内感染防止に努めながら、引き続き発熱外来を設置しています。7月31日現在の発熱外来患者数は、田沢湖病院58人、角館総合病院458人です。

また、角館総合病院では、感染者の入院受入れに加え、無症状を対象とした自費検査を継続して実施しています。今年度の検査状況は、7月28日現在72件で、陰性証明が必要な方や、行政検査の対象とならない方のニーズに答えています。

今後も県内の感染状況等に応じた医療提供が求められますが、病院事業一丸となって新型コロナ対応に当たります。

以上、主要事項及び諸般の報告を申し上げました。本定例会に提案している案件は報告関係3件、条例関係6件、予算関係3件、決算認定関係12件、その他1件、人事関係1件、諮問関係1件の計27件です。

慎重審議の上、全議案についてご可決を賜りますようお願い申し上げます、市政報告とします。